

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究 (A)

研究期間：2008～2011

課題番号：20683001

研究課題名 (和文) 破綻国家の再建における国際平和活動の新しい役割と課題

研究課題名 (英文) New Roles and Challenges of International Peace Operations in Reconstruction of Failed States

研究代表者

上杉 勇司 (UESUGI YUJI)

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号：20403610

研究分野：紛争解決

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：安全保障論、国際平和活動、破綻国家再建、平和構築、治安部門改革

1. 研究計画の概要

(1) 破綻国家の再建に国際平和活動がどのような役割を果たしてきたのかを具体的な事例を検証しながら明らかにする。

(2) 破綻国家の再建に国際平和活動が関与する際に、どのような課題が存在するのかを具体的な事例を検証しながら明らかにする。

(3) 破綻国家の再建における国際平和活動の取り組みの中で、特に治安部門改革に焦点を当て、国際平和活動の新しい役割と課題を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

これまで破綻国家の再建に国際平和活動がどのような役割を果たしてきたのかについて、文献調査および専門家や関係者への聞き取り調査を行ってきた。これらの研究成果を日本国際政治学会 (平成 22 年 10 月) と International Studies Association (平成 23 年 3 月) において報告するとともに、あわせて論文を提出した。また、国際平和活動の現地調査として、東ティモールを訪問し、国連東ティモール統合ミッションが東ティモールの治安部門改革に果たす役割に焦点を当てた研究を進めてきた。学会報告の論文に現地調査の成果を取り込み、最終年度において学術誌への寄稿、および学術書として商業出版とすることを念頭に準備を進めた。

3. 現在までの達成度

区分②：おおむね順調に進展している
当初の予定では、アフガニスタンの事例を含め、現地調査も実施するつもりであった。しかし、現地の治安状況の悪化に伴い、アフガニスタンに関する調査は、文献調査や専門家への聞き取り調査に留まっている。その観点か

らは、アフガニスタンに関する事例研究は十分な達成度に至っていない。しかし、東ティモールに関しては十分な情報を集め、現地調査も実施することができた。こちらの研究成果は学会や国際会議で報告する機会を得た。さらに、これまで実施してきた先行研究の整理と理論的考察に関しては、十分に網羅的に行うことができた。その中で安全保障と開発の交錯という視点を重視し、分析枠組みを整理する作業も行った。したがって、最終年度の研究成果の統合と総括に向けて、十分な達成度にあると評価できる。

4. 今後の研究の推進方策

今後もアフガニスタンの現地調査の実施は困難であることを勘案し、東ティモールの事例を中心に研究をとりまとめていく。最終年度には学術誌への寄稿をして研究成果の学会への還元に努めたい。さらに、本研究を核とする研究成果を学術誌として日本語 (国際書院) および英語 (DCAF) で出版することで、成果の普及という観点を最終年度は優先事項に掲げる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

1. Shamsul Hadi Shams and Yuji Uesugi, Analyzing the Underlying Causes of the Afghan Intrastate Armed Conflict through the Lens of three Insurrection Approaches, Journal of International Development and Cooperation, 査読有, vol. 17, No. 2, 2011, pp. 75-98.

[その他]

2. Yuji Uesugi, Provincial Reconstruction Teams (PRTs) in Afghanistan: Filling the Gap in Peacebuilding, Masatsugu Matsuo et al. (ed.), Peace and Human Security, 査読無、IPSHU English Research Report Series, 23, 2009, pp. 173-193.

3. 上杉勇司、平和協力国家日本の構想-平和構築支援と文民派遣体制の強化策、海外事情、査読無、56 (9)、2008年、69-86頁

4. 上杉勇司、日本の国際平和協力政策における自衛隊の国際平和活動の位置づけ、国際安全保障、査読無、36、2008年、41-66頁

[学会発表] (計3件)

1. Yuji Uesugi, Peacebuilding and Security Sector Governance in Asia: A Comparative Case Study of Timor-Leste, Sri Lanka and Nepal, International Studies Association, 16-20 March 2011, Montreal, Canada

2. 上杉勇司、平和構築における治安部門改革(SSR)の理論と現実-包括的アプローチと段階的アプローチの相克、日本国際政治学会、平成22年10月29-31日、札幌市

3. 上杉勇司、アフガニスタンにおける平和構築: 治安と復興の負の連鎖を断ち切るために、日本国際政治学会、平成20年10月24-26日、つくば市

[図書] (計4件)

1. Yuji Uesugi, The Nexus between Peacebuilding and Regionalism in Asia Pacific: Japan's Attempt to Mainstream Peacebuilding through Human Resource Development, Japan Center for International Exchange, Tadashi Yamamoto and Koji Watanabe (eds.), New Challenges, New Approaches: Regional Security Cooperation in East Asia, March 2011, pp. 37-57.

2. Yuji Uesugi (ed.), Peacebuilding and Security Sector Governance in Asia, HiPeC Report, March, 2011.

3. 上杉勇司・長谷川晋編、平和構築と治安部門改革(SSR)-開発と安全保障の視点から-、IPSHU 研究報告シリーズ、45、2010年3月。

4. Yuji Uesugi (ed.), Toward Bringing Stability in Afghanistan: A Review of the Peacebuilding Strategy, IPSHU English Research Report Series, 24, 2009.